

真の「地産地消」とは何か

東京農業大学応用生物科学部教授

小 泉 武 夫

「地産地消」を国民的運動として、早急に実践することが、なぜ、必要なのかという理由は、大概の人なら知っている。

それは、日本の農林水産業の長期的低迷による食料自給率が大幅に低下している（カロリーベースで40%とされる）ことに歯止めを掛け、一転して上昇に移さなければならないからである。

今のこの状態が続いて海外に食料の多くを依存すると、日本の農林水産業はますます弱体化するばかりでなく、輸入食料からの安心・安全の問題（過剰農薬や抗生物質、罹病家畜肉などからの食禍の心配）などが一層深刻化するからである。

このようなことへの対策として、「地産地消」が今叫ばれている中で、実は「地産地消」には更なる重要な意義が多数潜在していることに気づき、この運動を一層推し進める必要性に駆り立てられるのである。

講演では、「真の地産地消とは何か」と題し、大要次のような内容で述べる。

- 今、なぜ「地産地消」なのか（日本農業の現状と危機）

- 民族の「食と風土」から「地産地消」を考える

- 「地産地消」がもたらす地域経済循環システムの構築（「地産地消」と地域の活性化）

- 「地産地消」を展開するに当たっての不可避の変革（農水産物の流通系統の革新化）

- 「地産地消」と「食育」がもたらす日本の将来